

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702685
法人名	(株)プロデュース
事業所名	グループホーム きらめき (ユニット名 2階 )
所在地	福岡県北九州市八幡西区本城東1-11-27
自己評価作成日	平成28年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成28年12月6日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るい挨拶、元気な会社！をスローガンに掲げ、スタッフ一同、認知症高齢者の利用者様の支援をさせて頂いています。こじんまりとした家庭的な雰囲気と専門の介護スタッフとともに生活しています。共に暮らしながらひととしての尊厳と生きる力を再び取り戻し、心穏やかな日々をお過ごしいただく「もう一つの我が家」です。入浴や散髪など生活に必要なサービスはもちろん、季節や気候に応じたレクリエーションの機会も多く設けています。協力医療機関と連携し、健康・服薬管理や緊急時対応も安心です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して12年が経過し、利用者と一緒に買い物等に近隣に出かけたり、地域の行事に参加し挨拶をかわす時には、「きらめきさん」と声をかけられる馴染み関係を築くことができている。毎朝、利用者とともに理念を唱和し、職員からは利用者や地域への感謝の言葉が多く聞かれ、日々思いやりと尊厳に満ち、利用者が笑顔になる支援に努めている。家庭の事情で一旦退社した職員が、もう一度働きたいと再就職するなど働きやすい職場でもある。また経営者、管理者は現状をよりよくするために、ホームの課題を謙虚に受け止め改善しようとする姿勢が伺える。今後も地域に根付いた存在として期待できるホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一日1回、理念の唱和を行い、自分たちの介護の有り方、思いを皆で確認している	各ユニットの共有空間に理念を掲示しており、毎朝、職員と利用者で唱和している。理念のもと地域とのつながりを大切にしながら、利用者が「喜んで」「楽しんで」「明るく快適に」「生活を」ができるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材購入などをし(肉屋さん・魚屋さん等)スタッフや利用者さんと顔を合わせる事で日常的に交流している	自治区の夏祭りではホームも毎年カレーライスで出店し、地域住民も楽しみにしている。近隣の保育園行事への参加や市民センターのふれあい昼食会に、月1回利用者が参加するなど地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし地域の方たちに認知症の勉強会などに参加して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月4月6月8月10月(12月予定)と行っている。家族の方、地域の方々からたくさんの意見を頂いている	二ヶ月に1回定期的に開催され、利用者、利用者家族の代表、自治会区長、地域包括支援センター職員、同じ法人の管理者等が参加している。議事録には外部評価の実施や事故についても報告し改善策等の検討がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて地域包括ケアの方に参加して頂き協力を得ている	市の担当者には何でも相談できる関係にある。事業所としての対応に迷ったりすることなども親身になって相談に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてそれぞれのスタッフが学び、互いに意見交換しケアにつなげている。研修の参加し会議で報告周知している	研修の機会を持ち拘束についての理解を深めている。食事のエプロンのかけ方や、言葉かけによっては拘束になることなども学び、職員は互いに他の手立てはないかを話し合いケアに努めている。防犯のためカメラとアラームを設置し、夜間帯の19時から翌朝6時まで施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などは行われていない。利用者の尊厳を一番考えて行動している。研修に参加し会議で報告し周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用し毎月関わらせて頂いている	現在、権利擁護を利用中の方がおられることを職員も理解している。福岡県が主催する高齢者の権利擁護推進員養成研修に参加をし、職員会議等で伝達を行っている。パンフレットを設置し情報を提供しており、相談を受けた場合は関係機関へ連絡し対応している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明を行い理解、納得していただいてから契約を行っている。センター方式を利用し過去の生活状況を十分聞き取り、意見要望を聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望など、改善できるところは改善していくよう努めている。運営推進会議の議事録を必ず外部の方が見れる様にファイルし見やすい様に入口に置いている。	運営推進会議や家族の訪問時に話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見や要望は改善に向け検討している。家族から献立表を利用者との話題にしたいとの要望があり、お知らせをするようになった事例がある。現状では実現できにくいことも諦めず検討を重ねている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一年に一度の経営指針の発表や月に一度の全体ミーティングでの意見交換で方向性や見直しを行っている	代表者、管理者は職員が意見や要望を言いやすい環境を作っている。職員の意見はミーティング等で取り上げ改善に努めており、職員間のコミュニケーションもよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、経営指針や目標を全スタッフは向け、はっきり伝え責任と意思決定を伝え取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	十分に個々の能力を理解して頂きその人その人に合った仕事ができるよう配慮して頂いている	職員の年齢層は幅広く、採用に際して性別や年齢の制限はない。自己研鑽のための研修の機会があれば会社側から職員に声かけを行っている。職員は「物の見方や人として大切なものを学べる働きやすい職場」と言っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ一人一人と面談を行い人権教育に取り組んでいる	毎月、職員一人一人と人権の尊重について面談を行い助言をしている。職員の何気ない言動が人権を損なうおそれがある場合にはその場で注意をし人権教育に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会をスタッフ同士で行い代表が参加してくださることも有り、日々振り返りとトレーニングを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろいろな研修を行い同じ業種の方々と交流を行っている、その中で意見交換を行う		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い本人、家族が困っていること、不安や要望を安心していただけるよう心掛けている。本人が苦痛の無いように不安感を和らげるように、声掛けには十分注意を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い不安や要望を聴き安心していただけるよう努めている。大事なご家族をお預かりする事を自覚し精一杯の努力をし不安感を取り除けるようケアをする。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族と面談を行い不安や要望を聴き安心していただけるよう努めている。センター方式活用し生まれ育ってきた背景をもとにケアを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人自身の親・祖父・祖母のように想いケアを行っている。喜び・悲しみ・怒りをともに分かち合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を行いよりよいケアが出来るよう信頼関係を築いている。毎月「家族通信」を送っている。ご家族が来られた時はご家族だけで過ごされるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が気軽に会いに来て頂いている。	ホームの夏祭りや餅つき大会に家族や友人地域の方の参加がある。入居前から通っていた馴染みの美容室に個別に出かけたり、ドライブレクリエーションで自宅に立ち寄りしたりするなど、継続的な交流のための支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングではお隣同士が話し合える距離感にしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様が気軽に立ち寄って頂ける環境である		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を尊重しご希望に添ったケアをしている。意思疎通が出来ない方にはご家族に情報を聞き望まれるであろう生活に近づけている。	利用者一人一人に配慮しながら何をしたいかを常に考える支援を心掛けており、思いを伝えられない利用者とは手を握り顔の表情を観察したりしながらくみ取ろうとしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご家族様に生活歴を記入していただき情報収集をしている。また面会に来れた時にお話をし情報収集している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を皆で共有し快適に過ごして頂くようその都度改善するよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットごとの事前ミーティングを行い話し合って改善している	ユニット単位で月一回の頻度にて、変化や気になる利用者から3～4名を中心に話し合いをしている。日頃のかかわりの中から思いをくみ取り、率直に意見を交わし、出された意見は随時計画に取り入れている。モニタリングはケアマネジャーとも確認しながら作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入だけでなく連絡ノートや日勤リーダーノートを活用し共有と改善を行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人が望まれるサービスを状況に合わせて行っている。リハビリを行いたい方は時間を決め歩行訓練をしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい昼食会に参加している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を利用し毎週往診に来て頂いている	利用者や家族の希望で現在4軒のかかりつけ医院の医師が毎週～隔週往診に来ており、診察時には必ず訪問看護と管理者が同行し指示を受けるようにしている。必要に応じて訪問歯科も利用している。眼科やその他の病院へも家族やスタッフが通院に同行し医師の指示など互いに共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回訪問看護師が来てくださり健康チェックと状態把握を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでの生活状況を提供している。退院時は病院側からも状況を提供して下さっている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と医師と情報交換を行い状態が変化したときは連絡し意向の確認を行っている	看取りの介護を取り入れている。利用者や家族の意向を中心に、医師や訪問看護と事業所及びスタッフががー丸となって支援出来るよう看取りの指針を作成し、実施している。看取りをする度に記録し改善点の検討もしている。緊急時24時間往診してくれる医師があり体制は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる急変時は職員に伝え対応の手順を皆で共有している。AEDの取り扱いなど消防士を呼び講義を受けた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的におこなっている	年2回(4、10月)の消防訓練を実施している。近隣の住民の援助も確保している。建物の構造上、より安全な避難が出来るよう、現在、新しいマニュアルの作成中である。非常時の備蓄品もあり、随時交換している。より安心、安全にを目指している。	有事に備え、災害時対応マニュアルの完成と、現状に即した訓練の実施が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった声掛けを心掛けている。一つ一つのケアはご本人の同意頂くようにしている	理念を中心に据えた対応をスタッフ一同が実践しようと心掛けている。利用者の今までの暮らしを大切にしており、昼夜逆転している利用者にも優しく有るがままの支援をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物や行事への参加など確認しご本人の望むものを提供している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でテレビを観られたり休まれたり一人一人が望まれる過ごし方を大切にしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ、その日着るものをご本人に確認するよう努めている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のその時の状態に合わせお盆拭き、洗濯ものたたみなど一緒に楽しく行っている。	スタッフ4名で一週間のメニューを作成し、食材は近くの商店より購入し、利用者や買い物に行く事もある。個々の嗜好や季節感やバランスを考え、肉類・魚類を昼夜に取り入れて、急な利用者の状況にも対応している。食事はスタッフも一緒にしており、下膳やテーブル拭きの手伝いしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量に気を付け1000ccは摂取できるように声掛けなど気を付けている。お一人お一人のチェック表に記入皆で共有している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。困難な方は介助にて行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて確認、トイレへの声掛けを行い出来るだけトイレ内への排泄、排便が出来るよう支援している。	排泄は健康のパロメーターと捉え、排泄チェック表を利用し可能な限りトイレでの排泄が継続できるように努めている。さりげない声掛けや誘導、支援のいる利用者への配慮や2人介助の周知もしている。何時でも対応できるように排泄用品はトイレに用意している。きれいに掃除もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを提供している。献立を作る際栄養バランスを考えている。野菜のメニューを多く取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴をして頂いている。時間とメンバーがある程度決まっているが希望があれば出来るだけ対応している。	浴室は、家庭的で落ち着いた雰囲気があり、安全面も確保している。入浴は週2回を予定しており、個々の状況に応じて、ゆっくりと入浴が楽しめるよう支援している。コミュニケーションを図り、身体の変化などにも気を配っている。拒否がある時は、清拭や手足浴をしたり入浴日を変更したりして対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活に合わせて居室で休んで頂いている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的を理解し症状により薬(下剤)を減らすなどしている。新しく処方がある時は必ず申し送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆を拭いて頂いたりおやつを出すなどのその方に合った支援をしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は出来ていない	買い物や家族との外出、自治会の行事、バスハイク等に出かけている。日常的に、自由に外出するには、建物の構造上、職員対応でないと難しい面があり希望通りにはできていない。今後は日常的な外出ができるように検討しているところである。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在出来ていない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望により携帯電話を持った頂くなどそれぞれ本人とご家族に合った支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により飾りなどをして季節感を出している	共有の空間はきれいに掃除されており、廊下にはソファを配置し、いつでも寛げるようにしている。利用者の作品や、調査訪問時はクリスマスの装飾品があり、季節感を取り入れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどでゆっくりと過ごせるようにソファを置き自由に過ごせる空間がある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスや鏡台などを持ってきていただきご本人が安心して心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は広く家族が泊まることもできる。プライバシーを保ちながら、馴染みの家具を置いたり、花や飾付をしたりしている。ドアの手作りの暖簾が和風感を出しており、和やかな雰囲気を作っている。家族が来て模様替えをすることもあり、居心地よい居室になるよう工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下膳や食器洗い洗濯物たたみなど出来ることをしていただき、その都度、感謝の気持ちを伝えている。		